

トーイツ C-2000 メンテナンスマニュアル

作成日 2010/07/27

臨床工学部

1. 外観に顕著な汚れ・傷等がないかチェックする。

2. 漏れ電流測定

・接地漏れ電流および外装漏れ電流を測定し、基準値内であることを確認する。

3. パワーアップテスト

1) 自己診断

電源をオンにし、正常に立ち上がること。

4. 性能点検

1) 酸素センサー校正

酸素濃度の画面を開き、校正を行う。

画面の指示に従い、酸素センサを保育器外に出し、校正終了後は元に戻す。

5. 温度測定 安定まで 20～30 分程度かかる

1) 温度制御(マニュアル) 正常値は設定値の $\pm 1^{\circ}\text{C}$

温度計を用いて 32°C 、 36°C の2点で測定する。

測定場所は、頭部1箇所温度が安定した時点で測定する。

2) 湿度制御 正常値は設定値の $\pm 10\%$ 以内

点検で加湿を行う場合にはリネンやマットなどは外に出しておくこと。

水供給を行い、湿度制御を ON にて湿度設定を 60%、80% にそれぞれ設定し湿度計を用いて測定する。

湿度が安定した時点で測定する。

3) 酸素濃度制御 正常値は設定値の $\pm 3\%$ 以内

酸素濃度計を用いて本体の酸素濃度計が設置されている場所近くで測定する。

設定値は 21%、50% で測定する。

酸素濃度は 21% 程度であることを確認した後、50% に設定し濃度が安定したところで測定する。

さらに5分後に変化がないか確認する。

5) 酸素リーク

酸素ホース取り付け部周辺を測定し酸素濃度が 40% 以上になっていないことを確認する。

～点検終了後～

各部品の滅菌を行う(NICUのみ)。

加湿モジュール、加湿棒も滅菌する。

4 西の Caleo はチェック後、各部品の滅菌消毒は行わずにメニューボタンよりクリーニングを行ってから片付ける。

NICU の Caleo をチェックする場合は事前に確認をとってから行う。